



# 感染症に気をつけよう



## 1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):9月の報告

腸管出血性大腸菌感染症の報告が 16 件ありました。うち 6 件は家族内感染と考えられています。家庭内での感染予防が重要です。なお、9 月中に報道等で話題になった毒素原性大腸菌(O148)は、全数報告対象疾患ではありませんので、今回の報告には含まれていません。

・啓発用チラシ 腸管出血性大腸菌感染症 O157 に注意しましょう!

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

レジオネラ症の報告が 9 件ありました。うち 5 件は集団発生が疑われています。

その他、細菌性赤痢・アメーバ赤痢・後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)各 4 件、コレラ・急性脳炎・梅毒・風しん各 1 件の報告がありました。

## 定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 8 月 22 日～平成 23 年 9 月 25 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>手足口病</u>		今年は大流行の年となりました。流行のピークは過ぎましたが、現在もまだ警報レベルが続いています。
<u>ヘルパンギーナ</u>		一部地域で警報レベルの流行が続いていますが、市内全体では落ち着いています。
<u>RS ウイルス感染症</u>		例年秋から冬にかけて流行する疾患ですが、今年は立ち上がりが早めです。全国的にも患者数は増加傾向なので、例年以上に流行する可能性があります。

大流行    流行    やや流行    散発    × 市内発生なし  
 増加傾向    横ばい    減少傾向

## 2. 今気をつけたい感染症

レジオネラ症: レジオネラという菌が原因の感染症です。20～45 度程度の温かい、停滞した水(お湯)で増殖しやすいという特徴があるので、管理不十分な公衆浴場、空調機の冷却塔、24 時間風呂や加湿器等が原因となり、集団感染を引き起こすことがあります。症状は、体のだるさ、発熱、頭痛、咳などです。乳幼児や高齢者など、抵抗力の弱い人が重症化しやすい傾向があり、注意が必要です。人から人へ感染することはありません。レジオネラは有効な抗生物質が限定されており、上記の様な症状で医療機関にかかる際には、お風呂等の利用状況も医師に伝えることが大切です。

「感染症に気をつけよう10月号」は、9月29日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、[委員会報告](#)をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用の[パンフレット](#)の作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

